

薬局での一般用医薬品の相談対応等に関する調査結果について

社団法人 日本薬剤師会

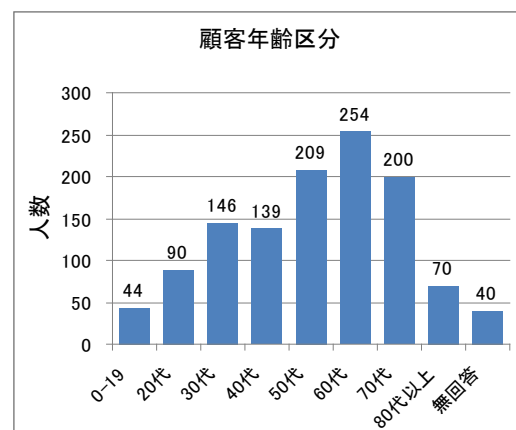
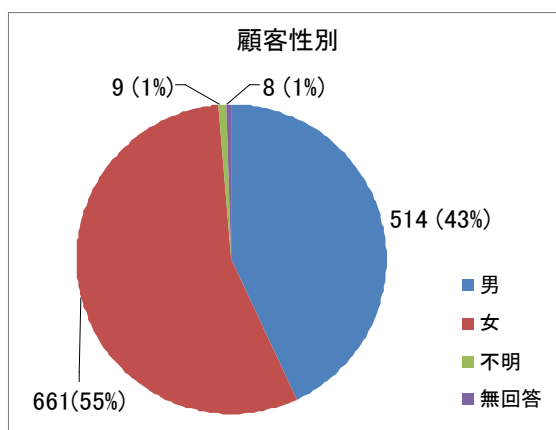
1. 調査名 : 平成 23 年度 一般用医薬品の相談対応等に関する調査
2. 調査期間 : 平成 23 年 7 月 28 日～平成 23 年 8 月 31 日
3. 調査票の配付方法 : 本会からサポート薬局に郵送（返信用封筒も同封）
4. 調査票の回収方法 : 同封する返信用封筒でサポート薬局から本会へ返送
5. 調査依頼薬局数 : 9 5 3 薬局
6. 回答薬局数 : 6 1 8 薬局（回収率 6 4 . 8 %）
7. 調査対象

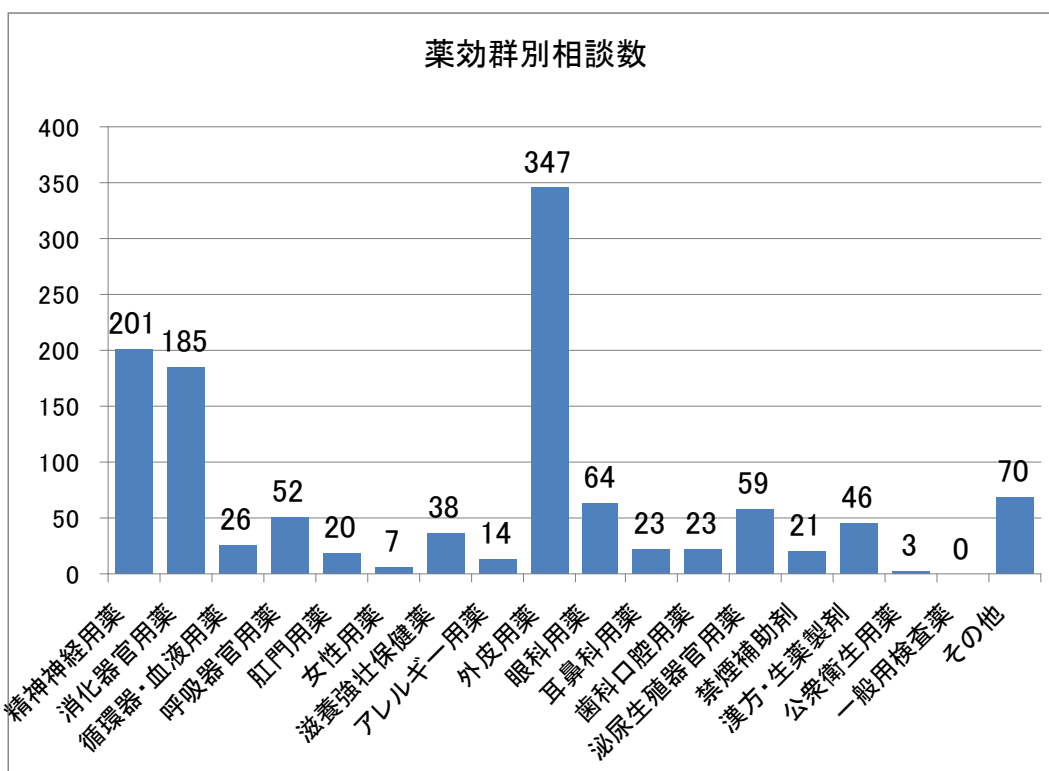
一般用医薬品（医薬部外品も含む）の購入や相談を目的として来局した顧客からの相談を受けた結果、下記のような事例。

- ・現在使用中の一般用医薬品の使用中止の進言をした事例
- ・一般用医薬品の販売を行わなかった事例
- ・医療機関への受診を勧めた事例
- ・製品名や成分名を指名してきたが、相談応需の後に変更した事例
- ・平成 22 年 9 月 1 日から平成 23 年 8 月 31 日までの過去 1 年間の事例で、なるべく記憶が鮮明な例。相談記録（販売記録）などから内容が明確な場合は、平成 21 年 6 月以降（改正薬事法施行以後）の事例であれば報告可能。

8. 調査結果概要

回答薬局のうち、433 薬局から 1192 事例を収集（内 1184 事例が有効回答）





■ 具体的事例

○ 事例 1

相談対応：特に思い当たらないが吐き気あり。吐き気止めの薬を買いに来る。腹部の張りがあり痛みがある。便秘(数日便無し)。今まで便秘無し。腸閉塞の疑いがあるので至急病院に行くよう勧める。

転帰：病院へ行く。次の日腸閉塞の手術を行う。

○ 事例 2

相談対応：胃痛を訴え来局。医療用医薬品の鎮痛剤を複数服用しており、OTCの胃薬購入を希望したが、潰瘍の恐れもあるため内科受診をすすめた。

転帰：内科を受診し、胃カメラ検査の結果、潰瘍には至っていないが、炎症があるため、鎮痛剤を中止し、H₂ブロッカーの処方となった。

○ 事例 3

相談対応：ご主人の便が出ないと家族が来局。腹が張り苦しいと本人が言う。1週間前から、下剤（センナ系）、浣腸もためしたが出ないとこのことで、手持ちの医療用医薬品とOTCを持参し相談される。出ない事から、腸閉塞など、器質的なもの疑い、すぐにかかりつけ医へ行き検査するように伝え、販売せず。

転帰：かかりつけ医より基幹病院へ紹介され、検査の結果癌により、そのまま入院となった。

○事例 4

相談対応：腹痛で来店、心臓病（狭心症）の方なのですぐの受診をすすめる。

転帰：心筋梗塞ですぐに大病院へ手術となる。後日、命を助けてもらったと大変喜ばれる。

○事例 5

相談対応：ご家族が来店され、80代の男性で1週間前から咳が続く。微熱が出ているので、風邪薬か咳止めが欲しい。肺炎の可能性を疑い、医薬品販売せず、かかりつけ医への受診を勧奨した。

転帰：病院に行き、検査結果、肺炎の為2週間入院した。

○事例 6

相談対応：病院嫌いの方で、OTCの咳止めを使用しており、指名買いで来店。喘鳴があり、あきらかに喘息症状の為、販売せず、受診をすすめる。

転帰：不満で帰宅したが、後日来店、病院に行つてよかったと感謝される。

○事例 7

相談対応：1週間以上より咳が続くと訴え来局。咳止めを希望したが、喘息を疑い、医薬品を販売せず近隣の内科医院を紹介し、受診勧奨した。

転帰：喘息と診断され、抗生剤、吸入（ステロイド+β刺激剤）、抗ロイコトリエン剤、去痰薬が処方され、2週間くらいで喘息消失、吸入、抗ロイコトリエン、去痰薬引き続き服用中。

○事例 8

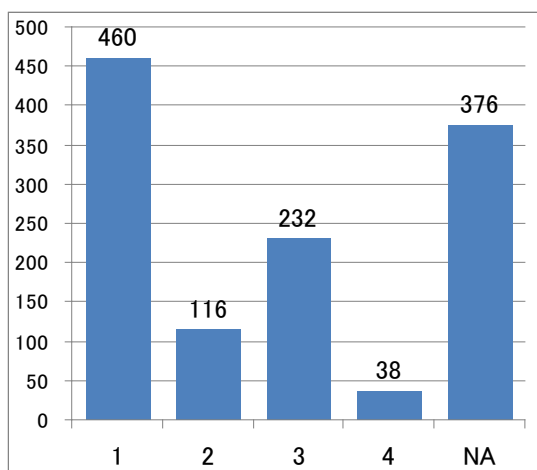
相談対応：咳が止まらないので、ある咳止めを指名し、それが欲しいとのこと。2～3日前にも同じ医薬品を購入された。不適切な使用の疑いがあり販売せず、受診勧奨。

○事例 9

相談対応：「咳止め A（指名）下さい。なければ咳止め B（指名）でも。」と来局。症状を聞くも口ごもった感じ。他の鎮咳薬すすめたが、嫌だと。不適切な使用の疑いがあり、販売せず。

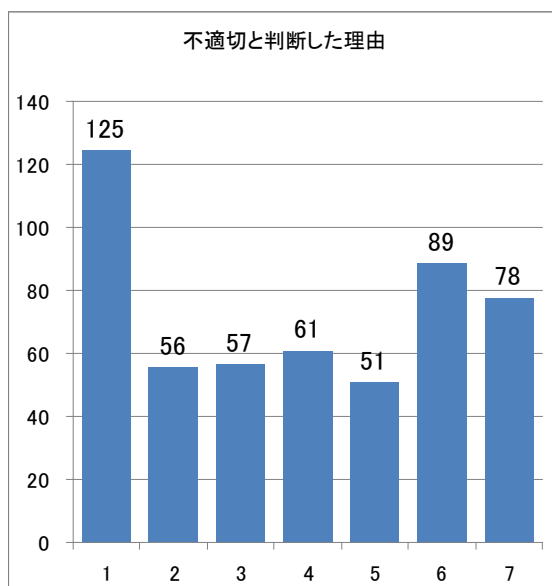
■薬局で、これら事例をどう判断したか。(複数回答)

	回答者数	割合
1 一般用医薬品での対応は困難な要件、あるいは不適切な症状と判断	460	38.6
2 使用中の医薬品の使用は不適切と判断(同一あるいは同効医薬品の継続使用の場合)	116	9.7
3 指名医薬品の使用は不適切と判断(指名・薬効群指名の場合)	232	19.5
4 その他	38	3.2
NA 無回答	376	31.5



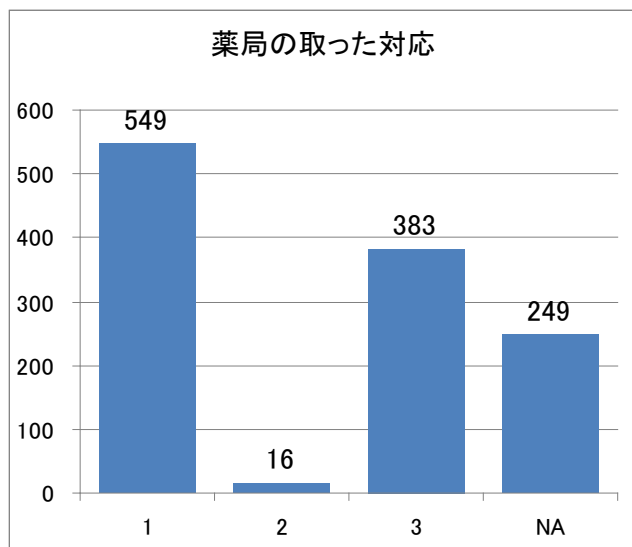
□医薬品の使用を不適切と判断した理由 (複数回答)

	回答者数	割合
1 指名医薬品(継続使用希望)の使用が不適切	125	31.2
2 副作用など有害事象発現	56	14.0
3 使用中(継続使用希望)の医薬品で症状などが不改善	57	14.2
4 既往歴、併用薬により不適切	61	15.2
5 長期連用の疑い	51	12.7
6 不適切使用(誤使用、目的外使用)の疑い	89	22.2
7 その他	78	19.5



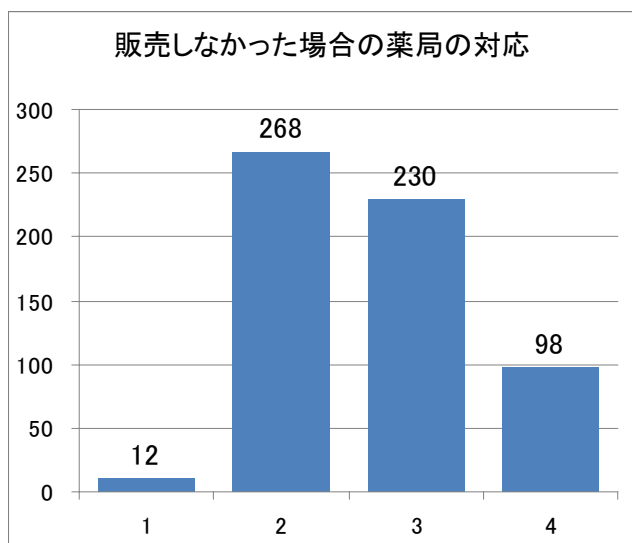
■ 薬局では、どのような対応をしたか。(複数回答)

	回答者数	割合
1 医薬品を販売しなかった	549	46.1
2 指名(製品名・成分名)以外の医薬品を推奨したが買わなかった	16	1.3
3 医薬品を販売した	383	32.1
NA 無回答	249	20.9



次ページ
□ 販売しなかった場合の薬局の対応 (複数回答)

	回答者数	割合
1 助言を断られた(何も出来なかった)	12	2.1
2 かかりつけ医の受診をすすめた	268	47.6
3 かかりつけ医の以外の医療機関(診療科)の受診をすすめた(紹介した)	230	40.9
4 その他	98	17.4



□販売した場合の薬局の対応（複数回答）

	回答者数	割合
1 指名(製品名・成分名)医薬品以外の推奨品	163	41.6
2 顧客が当初に指名(製品名・成分名)した医薬品	69	17.6
3 医療機関に受診するまでの「つなぎ」目的の医薬品	101	25.8
4 その他	91	23.2

